

府省名	警察庁	部署名	中部管区警察局岐阜県情報通信部
-----	-----	-----	-----------------

**取組のポイント**

オプト・アウト(拒否を選択する)という心理的な効果を利用し、従来の手続を変えることなく、宿直明けの休暇を取得しやすくなるよう取り組んだことにより、従来の取組に比べ取得率が倍増。

**取組概要**

宿直明けの休暇取得についてオプト・アウト方式(自ら休暇取得することを否定する方式)を取ることで、休暇取得を当然のものと位置付け、心理的に年休を取りやすくなるよう取り組んだもの。従来の休暇取得呼び掛けの場合と比較して、2倍強の取得実績をあげている。

**【宿直勤務後の休暇未取得の課題】**

情報通信部では、夜間の情報通信システムの障害対応のため、宿直体制を敷いて対応。宿直明けには年休取得が可能であるものの、従来は年休取得を呼び掛けるのみで、取得できておらず、身体的負担や勤務の質の低下への懸念も存在。

**【オプト・アウト方式による休暇取得手続の導入】**

17時15分から翌日の8時30分までとなっている現在の宿直体制において、宿直者が作成する日誌に「宿直明け休暇の取得をしない」項目を設け、休暇を取得しない者に限り、そこにレ点を記入。宿直者本人が自らの意志で休暇取得することを否定する必要があるため、潜在意識として年次休暇の取得を意識することにつなげている。

**【職員全体の意識改革】**

宿直を行う職員からは、言葉だけでなく書類に記載する方式によって、年次休暇が今までより取得しやすくなったとの声が多数寄せられ、さらに、幹部からは、宿直勤務明けに行う終了申告の際に、休暇の取得を促すことができるなど、職員全体で年次休暇の取得に対する意識改革が図られている。

宿直者メモ

曜日	種別	氏名	宿直明け休暇の取得
	特殊		<input type="checkbox"/> しない
	一般		<input type="checkbox"/> しない

宿直者日誌の様式



宿直勤務明けの終了申告

**講評**

現状維持バイアスから逃れるために、オプトアウト方式で休暇取得促進に取り組んだことは効果的であり先駆性もある。小さな取組の積み重ねが職場風土を変えることに有効であるという好事例。